

新 雲仙プロジェクト通信 13号

平成28年5月6日(金)～7日(土)

今回のプロジェクト通信は、平成28年5月6日(金)～7日(土)で行った現地視察と奥雲仙田代原高原での長崎大学環境科学部1年生の野外研修の報告です。

■1日目：雲仙市の資源を視察

今回は雲仙プロジェクト初参加者が2人(針貝会長、石橋)いることもあって、前日から現地入りし、雲仙市の豊かな資源を視察することになりました。

天候の心配もありましたが、朝10:00過ぎにJCCA事務局前を出発し、さほど雨に降られることもなく(途中でコロッケ蕎麦がおいしい蕎麦屋さんで昼食をとりつつ)、無事雲仙市に到着しました。

【雲仙市国見 神代小路(こうじろくうじ) 散策、

歴史文化公園 鍋島邸見学】

まずは、美しいまちなみ大賞にも選ばれた神代小路地区を散策。武家屋敷建築と明治期以降の近代和風建築の建造物群が石垣や生垣、自然石の縁石や水路により、風情のあるまちなみを形成しています。

ここでは大人も子どもも、そして知らない人にも「こんにちは」とはっきりとした声で挨拶をします。とても気持ちがいいです。きれいな水が循環する水路が続く道路にはゴミが一つも落ちておらず、カニが悠々と歩いていました。飾らないまちなみで穏やかに生活している姿というのは良いものだと思います。



通学途中の子ども達



鍋島邸の説明ガイド



▲▼池の原のミヤマキリシマ

【池の原のミヤマキリシマ見学】

次に向かったのは、整備されたミヤマキリシマの見学です。山を登っていくにつれて霧が濃くなっていき、予定していた仁田峠は濃霧のため封鎖。やむなく途中にある「池の原公園」に変更。

ここでは雨も少し強くなり、傘をさしての散策となりました。まだ7分咲きといったところでしたが、霧の中でいっそう濃いピンクがきれいでした。



【岩戸神社】

ここで雨は上がり、滑らないように急な石段をそろりそろりと登っていくと、見事な檜や杉の巨木に囲まれる幻想的な眺めに圧倒されました。樹齢は300年を越えているそうです。高いところから水が落ちてきて苔も多いという若干危険な岩場を奥に進むと、荘厳な雰囲気のある洞窟があり、そこが岩戸神社の御神体です。ここはかなり強力なパワースポットだと実感しました。



岩戸神社



巨木のスケール感

【旅館松栄】

見学も終わって「遊学の里くにみ」で温泉の予定でしたが、連休明けのため休館。予定より早い16:00過ぎに宿泊先の松栄さん到着。共助研で何度かお世話になっているお馴染みの旅館だそうで、温かく迎えられました。熊本の震災の影響で、長崎でも宿泊キャンセルが相次ぎ、泊まって貰えるとありがたいとのこと。

お風呂に入ったら、5人では申し訳ない広い部屋で豪華なお食事、しかも中田代表からの差し入れでとても大きな鯛の活き造りが・・・！感動しながら美味しくいただきました。そして、矢ヶ部さんの竹ギターというこれも豪華すぎる生BGMを聞きながら語り、明日に備えて充電完了しました。



真ん中に舟盛りが！



松栄のおかみさんと記念撮影

■ 2日目：田代原ミヤマキリシマ保全活動

【仁田峠のミヤマキリシマ見学】

朝の軽い散歩の後、朝食(名物の野菜プリン付き)をとったら8:00頃旅館を出発。霧が晴れることを祈って仁田峠に再チャレンジ。とりあえずゲートは開いていたので登って行ったら、やっぱり霧が残っていて眺めはイマイチでした。ミヤマキリシマも見頃はまだまだ先といったところで、霧が晴れるのを待ってみましたが、平成新山も見ることが叶いませんでした。残念。



仁田峠にて

そして、駐車場に戻る頃には、早朝にもかかわらず登山ルックの年配者が続々と現れたのにはびっくりしました。ご夫婦、ご家族、おばちゃんの団体など、どちら様も本格的なトレッキングの装備をされていて、「山の(自然の)需要は莫大である」と心に刻みました。

【奥雲仙 田代原 遊々の森】

今回のメインイベントの田代原に9:30到着。「NPO 奥雲仙の自然を守る会」の中田代表にご挨拶をして、田代原トレイルセンターで準備開始。前日の雨で足元が濡れるかと思われましたが、快晴となり午後は予定通り自然公園区域の貴重な自然を守るための保全活動を行うことができました。

参加者は、長崎大学 環境科学部の1年生23名(男性多し)と渡邊先生、環境省 雲仙自然保護官事務所の中山自然保護官とアクティブ・レンジャーの羽津見さん、林野庁九州森林管理局の岡本署長と新人の都さん、地元の方々は漬物専門のとださん、みうらさん、植物専門のまつながさん、NPO事務局の柴田さん等々沢山お集まりいただきました。

【午前中は座学と杭打ち&まんじゅう作り体験】

• 共助研 針貝会長より 挨拶と紹介

「国破れて山河あり」子供の頃見てきた美しい風景は、昭和30年頃を境に環境破壊が始まった。今、環境を元に戻す活動から後世に伝えていく使命を感じている。



針貝会長の挨拶

• 森林管理局 岡本署長の説明

JICAの活動等で世界の森林を見てきた。世界の森林は枯れていっている。それに対し、日本の森林は緑と水に恵まれているが減少傾向にある。国有林の多面的機能を発揮させるために、様々な管理を行っている。管理には、その地域に合うやり方を工夫する必要がある。

・雲仙自然保護官事務所 中山自然保護官の説明

国立公園とは、日本一自然がきれいな所であり、自然を守るために利用と保護を行っている。また、生物多様性が重要で、急速な絶滅の原因には開発、温暖化、外来生物があるが、実は、日本では人が生活する場で生息していた生物が絶滅しており、その点で林業などが有効である。

座学が終了したら、A～F 班にチーム分けしオリエンテーション。ドリルで穴を開けたところにシイタケの種菌を打ち付ける体験は主に男子が、お饅頭づくり体験は主に女子が参加。それぞれ賑やかに楽しく作業を行いました。



中山自然保護官



シイタケの植え付け体験

【お昼休み】

あんを入れて丸めたお饅頭は、発酵したらおばちゃん達が蒸しあげてくれます。そしてこれもおばちゃん達手づくりの季節の野菜たっぷり、タケノコご飯のお弁当で美味しいお食事タイム。班ごとに集まって好きな場所を選んで座り、学生さんの近況を聞いたり（1年生なのでまだ専攻が決まっていないこととか）、それぞれの出身地、プロの仕事についてなど楽しく話しながら交流を深めました。



和やかな昼食タイム

【奥雲仙 ミヤマキリシマ保全活動体験】

昼食が終わり、いよいよ田代原高原 遊々の森に出発。柵の中は牛の放牧を行っているので、石灰を踏んで入ります。各自、活動のための鎌、ハサミ、鍬、そして蛇よけの棒（！）を手に、自分たちのミヤマキリシマの株を一つ決め、その株の周りを綺麗にしていきます。最初はオタオタしながら、徐々に乗ってきたら次の株、次の株へと活動を広げていきました。

約1名、座学とお弁当は退屈そうにしていた学生が、実家でいつもやっているという草刈りになると、とても生き生きとやっていたのが印象的でした。最後に自分達が手がけた株に班のネームプレートをつけてミッション終了。



自分たちの株を決めたら草刈り！



↑この棒が蛇よけ…幸い蛇は出ず



どんどんキレイにしていきます



自分たちが手がけた株の前で

【活動を終えて】

記念撮影をしたら研修室に戻って出来立てのお饅頭でおやつタイム。自分たちで丸めたお饅頭がおいしく蒸しあがっていて、満足げに何個も食べている子もいました。

まんじゅうの葉は地元ではカッカラと呼ばれています。この葉には体に取り込んだ重金属を排出する薬効があるとも言われており、振る舞っていただいたコーヒーに入っていた柚子の粉など、自然の中に薬になるものが沢山あることが分かりました。

中田代表には、30年続けている奥雲仙の自然を守る会を通して、山の担い手が少なくなったこと、若い世代を育成する必要性があることを学生達に力強く語っていただきました。

• 学生の感想

保全活動の中でミヤマキリシマを守りたい。／座学は退屈だったが活動は楽しかった。／自然の中で活動する貴重な体験ができた。／初めてこういう体験をしたが楽しかった。／こういう活動がしたくて大学に入った。 など、みなさんこの活動を実感し、これから自分がやりたいことを考えるきっかけになったのではないのでしょうか。

・長崎大学 環境科学部 渡邊教授より 総括

環境保全機能を定量的に観測する研究をしている。大震災で都市機能が麻痺したことから、地方都市に農的な空間を取り入れたまちづくりの必要性を感じている。

環境問題を解決していくために学生たちに感じて欲しいことは、①自分が「知らない」ことを知ること、専門知識が必要だということ、②現場にいる人が色んなことを積み重ねながらやっていくこと、③沢山の人の協力のもとで解決すること<社会人基礎力>。



総括の様子

私も学生と一緒に、初めてこういった活動に参加し、実体験として楽しみながら知識を得ることができました。担い手へ伝えるというよりは、まだまだ体験を蓄えることがたくさん必要です。またこうした体験をしながら、自分なりにできることを考えていきます。

最後に、お土産にいただいた野菜入り蒲鉾がとても美味しかったです。柚子の粉もコーヒーに入れて飲んでますが、風味がよく丁度良い苦味が増して私は好きです。コーヒー好きの母も気に入ってます。地元の皆さんありがとうございました。そして、参加された共助研の皆さんお疲れ様でした。

【新雲仙プロジェクト通信第 13 号作成担当：石橋美樹】

